

千里山会第10回総会の概況

二〇〇六年十月二十九日(日) 十二時、御茶ノ水「東京ガーデンパレス」において、目出度く第10回の記念すべき総会が開催されました。このところ毎年ご奉仕してくださる二六回生の児玉、竹内、奥田(事務局長夫人)、二九回生の芦田、各氏が受付で迎えてくだされ、今年も海外や関西等からの懐かしい顔ぶれが見られました。会場には合唱隊の練習のあと、メンデルスゾーンの素敵な無言歌(ピアノ)が流れ、言わず語らずとも、和気藹々のうちに楽しい千里山会が始まりました。

総会

司会

事務局長 奥田陽一

開会

挨拶

世話人代表 大森 信

経過報告

特別講演

十八回生 寺澤美代子

演題

米国の教育を中心に

異文化体験を通じて想うこと

閉会

今年世話人の任期が満了となるので、先ず代表の再任について司会者より可否を出席会員に求めたところ、満場一致で大森信代表の再任が認められました。

総会挨拶に先立って八月十日付総会案内での代表のお誘い状を掲載します。これは後掲の総会挨拶とも関連があり、ユニークな海洋科学者の随感として興味深いものなので、編集部として掲載しました。

時候挨拶略 日本がいちばん平和だったのは、二〇〇年続いた鎖国の時代だったように思います。封建制度のもとで、人びとの暮らしはつましくはあったが、自然を敬い、自然の恵みに感謝して暮らしていました。この間、他国の民を殺めることもなく、幕末以外は他国に脅かされることもありませんでした。庶民に笑いはあったし、町人文化は栄えて、あまり暗い時代ではなかったように見えます。

自然を神としてみる日本人の自然観は西欧やイスラムの世界のそれとは全く異質のもので、ところが、西欧の価値観と社会システムの導入以後、日本人はこれを近代化と思い、神の恵みを天然資源とみて、兵を進めた先々で他国の恨みを後世に残しました。そして、戦後、とりわけ最近では、金の力でアジアを蔑視し、誠実さに欠ける

対応しかできない政治家や経済人の台頭を許して、近隣の国々のひんしゆくを買っています。世界全体もおかしいが、日本の荒みようは突出しています。自然に対しては、環境を破壊し、生産力を奪い、資源を欲するまでに費やしてなお、目前の経済的利益を追求しています。地球の生態系を回復できないまでに悪化させれば、貧困と社会的倫理の危機を招き、やがて人びとは水と食料を奪い合って、誰が生き残るかという深刻な事態を招くことになるでしょう。

いっそのこと、また鎖国するのも一案かと思うのです。そうすればまた人びとは田畑を再生させ、助け合って暮らすようになるでしょう。さびれた田舎にも活気が戻ります。明治のはじめに日本を訪れた欧米の知識人達が、西欧化のなかで消えていくだろうと案じた日本人の優しさや自然の美しさも、また復活するかも知れません。

鎖国の時代ではなかったけれども、私達の千里山には、まわりとは孤立した、ちょっと鎖国のような雰囲気がある。心の中の平和と自然の恵みへの感謝があったように思えます。優しかった過去の記憶をこれから来る人びとへの希望につなげて、今年もまた、和気藹々の半日を一緒に過ごしたいと思えます。

総会挨拶要旨 皆様こんにちは。さらに一年が過ぎましたが、こうして元気なお顔を揃えていただきました。ことを、世話人を代表しましてお礼申し上げます。ところで、ご案内状に、わたしは嘗ての千里山のたずまいに鎖国を連想したようなことを書きました。お断りしておきますが、私は鎖国願望者ではありません。鎖国的な考えが、国際社会での孤立を招き、やがて太平洋戦争という、政治心理からみれば鎖国願望としかいいようのない国家行動を起こしてしまつた過りを決して忘れてはならないと思っています。

先日、千里山を歩いてみて、地理的に区域が明瞭で、その中での人びとの交流が盛んだった往時は鎖国ではなく、むしろ出島のようなところだったのかと考えたものです。住宅地の歴史がそもそも新しかったそこには、住民には新しく大阪以外の土地からの移動された人たちが多かったように思います。いわゆる転勤族もかなりの割合を占めていました。そうした人たちがそれぞれ暮らして考えを持ち寄って、新しい地に千里山というふるさとをつくらうとした、そんな時代が昭和期前半の千里山でした。それが、当時としては極めて開かれた住民感覚を自然にかもしだし、親しいおつ

きあいを生み、千里山を周りとはちよつと違ったユニークな地域にしていたのでしよう。そこで育った期間が短かった人びとにも、千里山時代が懐かしい思い出になっているのは、そうした共通の意識と気高いモラルと、そしてそこに暮らしたことの満足感が根底にあるのだろうと思つていきます。

現在の千里山では、暮らしと住まいを考えるまちづくり協議会が、四年前に発足し、八〇余年の千里山の歴史を振り返り、古いものと新しいものが共存した魅力ある街にするためにはどうしたらよいかを考え、「まちづくり作法集」を編集するなど、熱心な活動を続けておられます。

短い時間ですが、思い出とこれからの更なる飛躍のために、楽しいひとときを過ごされますことを希望しております。 終り

奥田事務局長から経過報告、会計報告、三分一監事の承認報告、(以上別紙参照)。今年改選の年に当たり世話人・幹事に新しい人材の参加を期待したいが、当面再任了承。会誌編集人の柿崎氏から十号刊行をもつて勇退申し出あり、編集に興味と情熱を感じる方に後継を期待されました。

第10回総会 講演要旨

米国の教育を中心に

異文化体験を通じて想うこと

十八回生 寺澤美代子
(劉)

ニューヨークの市街地から北に向かって四〇分程のところにある郊外の静かな町、スカーズデールのあたりは、緑多く、住民の教育に対する関心も深く、環境に恵まれた地域でした。

主人の転勤に伴って渡米しました私共の家族が、二度にわたる計七年八ヶ月の米国生活の期間中、二度とも同じスカーズデール地域に住み、私自身も、三人の子供の成長に応じて、幼児教育から小・中・高を経て大学に至るまでの教育事情を一通り垣間見ることができましたのは、非常に貴重な体験だったと有難く思っております。先の講演の際には、教育の各段階に沿って話を進めましたが、本稿では、米国の教育の特色や

特別講演は、今回は女性会員に登場していただき、司会者から講師の紹介がありました。

会誌千里山に屢々ご寄稿いただいているほか、千里山会HPで全国海外子女教育・国際理解教育協議会の会報「ひまわり」七九号巻頭で「日本の学校教育への提言」を紹介しています。

講師略歴 千二小、吹田一中、茨木高校、神戸女学院 大学文学部英文学科卒、大阪万博・筑波科学博三井館 コンパニオン・リーダー兼館長付渉外役、在米七年八ヶ月の間に三人の子供たちが受けた教育を通して、米国の教育事情に触れる。帰国後、日本大学理工学部、秀明大学、和洋女子大学などで英語教育に携わる。

+ + +

教育について米国の事情を紹介されながら、いまだ本にとつて考えさせられる示唆に富んだ感銘の深いお話を聴かせていただきました。

講演内容は次々頁をご覧ください。

同期の男性からのお菓子の贈呈、ほかに24河井康郎氏から記念に菊一鉢の贈呈があり、会場は拍手に包まれました。



Scarsdale High School

異文化の違いについて、特に印象深く感じた事柄を取り上げて書いてまいりたいと思います。

新たな環境に向けた自然な導入

米国の義務教育は、キンダーガートンから始まり、キンダーガートンは、日本語では幼稚園と訳されますが、日本の幼稚園とは大分趣が違います。幼児の通うナースリー（保育園）がプレ（就学前の）スクールと呼ばれるのに対して、キンダーガートンに入ることは、入学を意味し、園児は、小学生となるに相応しい体力や規律、習慣を養う一年間の準備期間を過ごします。

私共の住んだ地域では、小学校とキンダーガートンと同じ校舎にあって、運動場や図書館など主な施設を共用していました。日々の生活を通して園児達が、小学生の生活を見聞きできるような様々な配慮がなされていましたから、多くの子供達は一年生になっても特別の緊張や戸惑いを感じることなく、すんなりと、小学校の生活に溶け込んでいく様子でした。

表現力を育む教育

米国の教育の大きな特色の一つは、幼児教育の段階

数人ずつ肯定側と否定側のチームに分かれて討論し、最後にそれぞれのチームが議論を通じて得た結論を述べるもので、生徒にとつては、チームワーク、議論の構築の仕方・進め方、結論への導き方を学び、表現力を高める有効な手段となります。このように、表現力の育成を重視した教育が続きますから、最高教育機関の一つ、ビジネス・スクールでは、表現力の無い学生には単位も与えられないと聞いています。

すべての面に見られる実力主義

小学一、二年の学習では、基礎固めにじっくり時間を掛けているように見受けられましたが、読書力を高めるための課題が始まる三年以降には、早くも能力別のクラス分けが始まっていました。学年が進むにつれて実力主義の傾向は強まり、高校の数学や英語の教科では、習熟度によって選べる種類のクラスがあって、力のある生徒はどんどん上のクラスを取って能力を伸ばせる仕組みになっていました。

一方、実力を示さなければ評価されない社会ですから、ここでも表現力が重要な要素となってきます。これは、多くの日本人駐在家族の子弟が直面する問題で、

から表現力を育て、その後の教育過程でも一貫して表現力が重視されるということです。人々の前に立って自分の好きな物を見せながらお話をするショウ・アンド・テル (show and tell) はナースリーの頃から始まります。熊の縫いぐるみを抱え上げて見せ、「この熊は、お誕生日におばあ様から貰ったの」というようなたわいな話に、小さな子供たちは喜んで拍手し、次々と手を挙げて自分の出番を待つ有様でした。自由遊びが中心のナースリーでも、一日一回はみんな揃ってこのようにショウ・アンド・テルの時を楽しんで過ごしていました。

小学生になっても低学年の間は、ショウ・アンド・テルの時間はカリキュラムに組み込まれており、例えば、パンフレットを見せながら家族と見学した博物館の紹介をするというように、発言内容も高まっています。

学年が進むにつれてショウ・アンド・テルは、両サイドに分かれて討論するディベート方式に移って表現力の訓練が図られます。ディベートは、中学・高校の社会科学の授業に度々取り入れられる学習方法です。例えば、一つの歴史的な事実の影響について学ぶとき、

英語が話せないために評価されないという辛さを、いやという程味わうことになりました。日本の高校を一年休学して高二に編入した息子が、数学の問題の解答が分かっていながら発言できないために、全く相手にされずに悔しい日々を過ごしたことから、或るときチョークを借りて黒板一杯に解答を書いたところ、先生を初めみんなが驚き、その日からクラス全員の態度がすっかり変わったという話を聞いたときには、私も何かじーンと感じたことを覚えております。一般に、帰国子女に対して、自己主張が強いという批判があります。が、彼らは自己主張しなければ生き残れない境遇を経て来たわけで、自己主張の強さも、帰国子女の持つ宿命的なものと言えるでしょう。

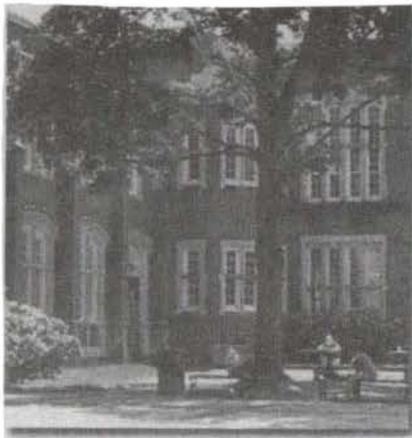
実力主義は学業面に限ったことではなく、例えば、高校の文化祭でミュージカルの公演が企画されたときなど、配役はすべてオーディションによって決められ、実力があれば下級生でも堂々と主役を演じていました。公演を支える美術・音響・演奏・衣装とすべてに能力のある者がリーダーとなってまとめ役を果たし、公演当日には、見事な実力主義の成果やリーダーシップの発揮振りに目を見張る思いをしました。同時に、一つ

の目標が定まると、これ程までに一致団結できるのかと米国の底力も感じたことでした。

個性を伸ばす教育

個性重視の教育は、高校教育になって一層顕著なものとなります。学力に応じた主要科目のクラス分けに加えて、選択科目での選択範囲が広がったため、生徒にはそれぞれの個性を伸ばす機会が与えられることとなります。美術の例では、絵画制作、彫刻、陶芸、プリント製作、写真、金属細工といったコースの選択が可能でした。スカースデールの高校の場合は特に恵まれた例だと思えますが、美術専攻希望の生徒が高校時代から専攻に関する選択科目を増やして将来に備えることもできるわけです。

高校では、単位取得や進学指導にあたる、ディーン(Diーン)と呼ばれる先生方の存在が大きく感じられました。生徒には各自担当のディーンが決まっています、年度初めには今までの成績記録や将来の進路希望を基に、



生徒は担当ディーンと話し合い指導を受けます。その結果、生徒の個性を重視した各々に独自の時間割が出来上がっていました。

こうしたディーンについて印象に残る思い出があります。二度目の渡米の際に高二に編入し、米国での大

学進学を希望していた長女は、ディーンとの関係がうまくいかず、進学に関してもなかなか適切な助言が得られずに不満な日々を過ごす様子でした。私は「担当のディーンは学校が決められたのだから辛抱しないと」と娘をなだめていましたが、或る日、たまたまお向かいの奥様が学校の様子を尋ねてくださったので娘のことを話しました。その方はユダヤ系のドクターの未亡人で、お子

様お二人もスカースデール高校の卒業生でした。

私の話を聞くなり、「ミセス寺澤、どうしてあなたは直ぐに高校に向かないの。自分の子供を自分で守らないで一体誰が守るのですか。すぐ様ディーンの変更を申し出なさい。」とまくし立てるのでした。余りの剣

幕に驚きながらも、彼女の熱意に後押しされるように高校に電話を入れると、対応の秘書が用件を聞き取り、すぐに、校長との面会の予約を取ってくれたのでした。その日の内に面会を果たした私に校長は「ディーンとの関係がうまくいっていない程不幸なことではない。すぐに担当のディーンを変えるよう取り計らいましょう。」と話され、翌日にはもう新しいディーンの担当が決まっていました。

教育への関心が高い地域だけにご近所にもユダヤ系の方々が多く、自分の安全は自分で守るといふ考え方には、日常生活でも度々遭遇することでした。ディーン交替の件でも、なるべく荒立てないようにと日本の考え方で過ごしていた私には反省材料ともなり、言うべきことは表現しなくてはならないと思いと知り、同時に、学校側の速やかな対応にも感心しました。事実、ディーン交替がなければ、その後の大学進学も順調に進まず、ひいては、彼女の人生も変わったかも知れないと思えますと、この一件の影響も大きなものだったと感じております。

大学入試の長期にわたる手順

米国の大学について一般に、出るのには難しいが入るのは易しいと言われますが、実際に体験してみても、アイビリーグと呼ばれる八大学のような一流校を受験する場合には、数ヶ月に及ぶ大変な努力を要することがよく分かりました。

九月に高三に進級し、徐々に希望校を絞り込んできた受験生は、十月に入ると実際に志望校を訪れて自分の目で確認することが出来ます。そんな場合、希望の大学に見学を申し出て予約を取って訪ねると、大学の宿舎に泊まれる手配が済んでいて、学生食堂での食事券も貰い、学内を自由に巡り、授業も見学してその大学に自分が合うかどうか考えることが出来ます。見学の最後に入試委員と面接し、疑問点も正していいよと志願すると志願書が手渡され、エッセイの課題も与えられて後日返送するという運びとなります。願書の記入量も多く、エッセイの課題も簡単なものではないことから、帰ってからの作業量は多く、更にもし何か志望して別の大学も見学するとその作業量も何倍かになります。一方、見学に出た間、高校を休む訳ですからそのための補いも必要となる上、高校の

学業成績が内申書で重視されるために日頃の学習にも精を出さねばなりません。その間に全国統一のSAT (Scholastic Aptitude Test 大学適正検査) やアチーブメントテスト(学力検査)も受けますから、受験生は、大変に忙しい日々を送ることになります。更に各志望大学に三通ずつの推薦状を送らなくてはならないので、先生や知り合いの方々に推薦状の作成を依頼します。良い推薦状を書いてもらうためには、日頃から良い印象を持つてもらえるような行動・努力も必要となります。

他方大学側には、願書が届くと志願者当人用のファイルが作られ、入試委員による面接記録、課題のエッセイ、SATや学力検査の結果、三通の推薦状、高校からの内申書などと次々に加えられてファイル内容が増え、その間に大学での検討も進みます。最終決定まで数ヶ月も掛かるため、十二月の中頃に志望先の大学から可能性が『有りそう』(likely)か『無さそう』(unlikely)かの連絡があります。可能性が無いとなると、志願したほかの大学に望みを掛けるか、新たな志望校を探して願書を出すこととなります。

可能性有りの通知を受けた生徒でも、ハーバード大などのトップ校では、更に地区のOBの面接を受ける

必要があり、指定されたOBのお宅を訪ね、OBから見た志願者の母校への適性が大学に報告されます。そうした過程を経て五月中旬か下旬には最終決定の通知を受けることとなります。

通知を受けたあと、もし数校に合格していて希望校以外に辞退届を出しますと、折り返し大学から「辞退に至った理由、志望校と選んだ大学についてどんな点が秀でていたか」など数項目の問い合わせがあり、今後の入試にかしてより良い人材を確保したいという大学側の熱意も強く感じられました。

米国では大学数が多いので、たやすく入学できる大学が多いのも事実ですが、トップ校を目指すとなると、それなりの努力を要し、また努力出来る余地があり、大学側にも、多くの参考資料から丁寧に個々の受験生の個性・適性を見極め、その大学に相応しい学生を確保しようとする意欲・熱意を感じる事ができました。日本での一回勝負的な大学入試の現状を思うとき、受験生と大学側双方にとって、少しでもプラスのなるような入試システムに近づいて欲しいと願ったことでした。

編集部より

寺澤美代子さんは、長年日本の複数の大学で英語教育の仕事に携わってこられました。

現在、バイリンガル教育相談や海外生活に関する相談に応じるサイトをご家族で立ち上げておられることを知り、HPを開いてみると、左のような掲載がありましたのでご紹介します。

事業名 ベターコミュニケーションズ

(Better Communications)

bettercommunications@COO_itscom.net

<http://www.geocities.jp/teraboom>

主要取扱業務

- * 子弟のバイリンガル教育相談
- * 異文化圏(欧米諸国)での生活対応助言
- * 帰国子女の英語力の維持
- * 翻訳(日→英 英→日)
- * 日常手紙分・ビジネス英語文作成

代表 寺澤美代子・パートナー 久美子サイクス

パートナー 井上多恵子・アドバイザー 寺澤恵

昨今の日本では教育改革の必要性が叫ばれ、ゆとり教育の見直しや、小学校での英語教育の必要性などについての議論を耳にします。米国の教育事情を見ても当然、取り入れたい面と勧められない面がありますが、これまでいくつかの日本の大学で大学生の発言力の無さに度々情けない思いをしてきたのも事実です。幼児教育の段階から発言力を養い、一貫して表現力や個性を重視し、実力主義を貫く教育の下で育ってきた人々と、これからの日本の若者たちは競合して行かなくてはなりません。次の世代を担う子供たちには、他国の教育の良さも取り入れて、それなりの力を付けて行って欲しいと願っています。

異文化には興味を持ちながら、英語は嫌い、発音に自信がないから音読もしないという多くの学生に接して来た経験から、小学校での英語教育の是非を問われれば、読み書きの一応の基礎のできた四年生頃から学科としての導入を図り、CDの活用や出来ればALT assistant language teacher (外国語指導助手)の手助けを得て、正しい発音に馴れて行けるよう、また異文化への関心を高めながら自分の考えを表現できるような教育を目指して欲しいと願っています。

懇親会

司会 二七回生 萩原直大

開会

十六回生 松村信男

乾杯

吹田市長・三三回生 阪口善雄

祝電

遠来者・初参加者紹介

みなで唄いましょう

千里山会合唱隊

閉会

三五回生 石井庸三

開会の挨拶と乾杯の音頭は、ハワイから参加の十六回生松村信男氏、ニチメン出身商社マンOB、若い時からマツタンの愛称で知られる。ホノルル居住。

吹田市長から第10回記念に祝電が披露されました。

遠来者紹介(所在地なしは吹田市 数字回生)

根石(前原) 絢子(14) 米国加州、馬場(末廣) 郁子(15) 芦屋、松村信男(16) ハワイ、加藤(福富) 久子(18)、浅野倉平(20) 井出(藤川) 敏(20) 大阪狭山、和田忠博(20) 神戸、樺山(三笠) 翠(20)、下村(安西) 保子(24) 愛知県豊明、森本清(26)、瀧(大森) 梢(26)、林裕三(27) 伊勢、細見正(29) 寝屋川、柏倉弘守(30) 滋賀県

草津、山口博(30) 神戸、酒井潤子(30) 宝塚 中神葵(30) 大阪市、増田泰邦(39) 宇都宮

初参加者の紹介

二六回生 森本清

三〇回生 山口博



遠来者初参加者に会場から大歓迎の拍手がありました。お断りとお詫び

今回、テーブルごとの全員の写真を撮り損ないまして、初参加のお方のみ掲載いたしました。出席者名簿と過去の会誌の写真で、ご容赦お願い申し上げます。

歓談が尽きないうちに、千里山会恒例の「みんなで唄いましょう」が始まり、22尾川原奈美江さんと27城戸三千代さんのリードで数曲大合唱、途中24河井康郎氏お手作りの菊の抽選会で和やかな空気が流れました。中締めは35石井庸三氏の音頭で健康と再会を約し、校歌斉唱につづいて、「今日の日はさようなら」を唄いながらの散会となりました。

千里山会2006年総会・懇親会 出席者名簿

2006.10.29

お茶の水ガーデンパレス 平安の間

(回生別・五十音順・*印初参加)

- 9回生 飯島泰蔵、辰巳 昂
- 10回生 徳田迪夫、五十嵐(伊達) 葉子
- 11回生 伏見千端子、三谷(平井) 萬里子
- 12回生 石川忠志
- 13回生 清水達夫
- 14回生 柿崎眞吾、三分一克美、岡本(山崎) 郁子、根石(前原) 絢子
- 15回生 赤羽隆夫、高橋景一、馬場(末廣) 郁子
- 16回生 清水健至、松村信男
- 17回生 高橋一三、友野信善、宮中 博、石田(神谷) 明子、山本(吉田) 恵子
- 18回生 片山 章、山崎不二雄、加藤(福富) 久子、栗木(池田) 明子、小松(日向) 暢子、滝澤(村中) 万里子、寺澤(劉) 美代子
- 20回生 浅野倉平、久保利也、長谷川宏有、和田忠博、井出(藤川) 敏、樺山(三笠) 翠、小山(西岡) 妙佳子、中内(柏倉) 國子、米崎(三輪) ふゆ子
- 21回生 大森 信
- 22回生 尾川原奈美江、垣見(小林) 久子
- 23回生 平川種徳、佐怒賀(片山) 弘子
- 24回生 奥田陽一、河井康郎、当真健夫、河合(五十嵐) 和子、下村(安西) 保子
- 26回生 細見 彰、*森本 清、村岡 進、奥田(渡部) 英子、大貫(石原) 康子、児玉(服部) 絢子、下野(中瀬) 龍子、高橋(藤原) 禮子、瀧(大森) 梢、竹内(渡辺) 照代
- 27回生 五十嵐孝夫、高見信雄、萩原直大、林 裕三、城戸(吉田) 三千代、島野(森広) 和子、戸島(大石) 松子、本川(松川) 淑子、増田(柏倉) 加子、宮林(村田) 芳子
- 29回生 芦田英雄、岩瀬琢郎、細見 正、園田(中野) 啓子、竹間(橋爪) 亮子
- 30回生 柏倉宏守、*山口 博、池田(桐山) 恭子、酒井潤子、中神(小倉) 葵
- 31回生 杉山(石井) 秀子、高松(五十嵐) 知子
- 32回生 田代為寛、古川(藤本) 道子
- 35回生 石井庸三
- 39回生 増田泰邦

以上84名

【2005年度 千里山会収支表】

05年4月1日～06年3月31日

2006年3月31日

収入	金額	支出	金額
前年度繰越	1,112,992		
年会費 264名	528,000	通信費	185,480
内訳 04年 12名	24,000	振込手数料	630
05年 251名	502,000	文具・コピー費	26,832
06年以降 1名	2,000	打合せ費	52,528
振込手数料(会費振込分)	-15,740	慶弔費	
その他	559	会誌8号作成費	286,733
利息	10	会員名簿作成費	
小計	512,829	小計	552,203
懇親会費 101名 @8,000	808,000	会食費	864,317
		写真費	
		合唱隊諸経費	23,700
		記念品費	
		小計	888,017
寄付金 8名	55,880	繰越	1,049,481
合計	2,489,701	合計	2,489,701

本日、千里山会の会計監査をした結果、処理は適正且つ正確であるものと認めます。

2006年 8月10日

監事 三分一 克美

参考 基金総額：617,000円 (1996年募集)

寄付累計：577,932円 (1996/4～2005/3 延81名、含切手寄付)

経過報告

- 06.08.07 会誌発送用封筒準備・発送
24奥田陽一 26奥田英子
- 06.08.10 05年度会計監査 場所：学士会館
14柿崎眞吾 14三分一克美 17高橋一三 24奥田陽一
- 06.08.10 会誌9号及び総会案内状を発送、会誌9号を千里山・佐井寺図書館へ寄贈
14柿崎眞吾 14三分一克美 17高橋一三 24奥田陽一
- 06.08.28 合唱隊打合せ・練習 場所：国際ユースホテル
- 06.09.04 会誌7号・8号・9号を国会図書館に納本
14 柿崎眞吾
- 06.09.19 合唱隊歌集印刷、発送
- 06.09.21 有志の集まり 場所：新橋セビアン 21大森信世話人会代表他9名参加
- 06.10.16 合唱隊練習 場所：国際ユースホテル
- 06.10.24 お茶の水ガーデンパレスと総会準備の打合せ
14柿崎眞吾 27萩原直大 24奥田陽一
- 06.10.29 2006年度 総会・懇親会 (詳細 会誌10号)
- 07.01.24 運営打合せ 14 柿崎眞吾 24 奥田陽一
- 07.02.02 会計処理中間報告発送
- 07.02.10 ナオミ幼稚園(千里山教会)特集打合せ 場所：学士会館
14 柿崎眞吾 24 奥田洋子 奥田陽一
- 07.02.15 会誌10号日曜学校特集打合せ 新宿三井クラブ
14 柿崎眞吾 15 高橋景一 21 平田坦
- 07.03.26 会誌10号日曜学校特集打合せ 新宿三井クラブ
16 松村信男 21 平田坦 14 柿崎眞吾
- 07.05.30 2006年度会計処理決算資料発送

【2006年度 千里山会収支表(仮)】

06年4月1日～07年03月31日

2007年3月31日

収入	金額	支出	金額
前年度繰越	1,049,481		
年会費 238名	476,000	通信費	128,555
		振込手数料	
内訳 05年 17名	34,000	文具・コピー費	57,293
06年 219名	438,000	打合経費	14,020
07年 2名	4,000	慶弔費他	1,050
		会誌9号作成費	304,585
振込手数料(会費振込分)	-18,850	会員名簿作成費	
その他	6,385		
利息	418		
小計	463,953	小計	505,503
懇親会費 84名	672,000	会食費	729,366
88,000		写真費	
		合唱隊諸経費	20,600
		記念品費	
		小計	749,966
寄付金 6名	48,600	繰越	978,565
合計	2,234,034	合計	2,234,034

参考 基金総額：617,000円 (1996年募集)

寄付累計：682,412円 (1996/4～2007/3 延94名、含切手寄付)